

家庭でのしつけは大丈夫？

保育園でお母さんの教室開く



熱心に話を聞くお母さんたち

ます。

このほど、海蔵保育園、同保護者会、海蔵地区市民センター共催で、園児をもつ母親を対象に、「幼児のしつけ」の講演会を開催しました。

講師の海蔵小学校長鎌田先生は、長年の教育にたづさわった経験から、豊富な事例を示しながら話をされ、集まったお母さん方から、「大変勉強になりました。早速実行に移したい」との声が聞かれました。

「心身とも健やかに育って欲しい」これはいつの時代も変わらぬ親の願いです。
ところが、俗悪なマスコミの影響や生活環境の変化から、成長するにつれ、非行に走る子どもや、非行とはならないまでも好ましくない行動をとる子どもが年々増えてゆきます。
「我が子に限って……」と、事が起ってからあわてても遅すぎます。学校、家庭、地域社会が一緒になって、健全な子どもを育てるよう努めなければなら

ないでしよう。
とりわけ家庭において、親子どもを指導する——しつける——ことは最も重要となっております。日々、具体的な生活の中で、時にはしかり、時にはほめてやる、あるいは又、暖かく見守ってやったり、子どもの相談にのって解決の糸口を見出す等々、年令に応じた適切な指導が心要です。
「三つ子の魂百まで」の諺どおり、幼少時の生活習慣は、生涯影響を及ぼすと言われており

七夕まつりをとおして

海蔵保育園保育

市川 明子

一年に一度の七夕まつり、子供たちは、一週間前から楽しみにして、おりました。年令にあわせて西瓜、ナス、キュウリの夏野菜、ちょうちん、輪つなぎ、思い思いの願い事を書いた短冊が沢山用意出来、各クラス共、飾っている時の子供の眼のかげやき、又立てた時、自分達の手で作った飾りにみとれ本当にうれしそうでした。
年少児のひよこ組でも星型とストローを交互に通し自分の手で飾りを作ってくれました。短冊

はお母さんに協力してもらい願ひ事を書いてもらいましたが、「お友達が沢山できますように」「元気な子に育つように」なかには「ウルトラマンのようにつよくなれ」というユニークなものまでありました。
当日、梅雨空をながめては「今日、お星さまみられるかなー」「ドラエモンをついた自転車買ってと書いたけど買ってもらえないかなー」と友達同話話しあっている子供達！ほほえましく思いました。

七夕のお話を聞いたたり、歌を歌ったり、保育の演ずる「織姫、ひこ星」の劇を観て幼いながらも七夕の伝説が理解出来たことと思ひます。
八日には園庭にて各クラスから出された笹飾りを焼きました。以前は川に流す



「うわー、きれい」の連発！

「善意の袋」御礼
本年も「善意の袋」をお願いしましたところ、沢山の方が協力下さいまして総額四十五万余円になりました。厚く御礼申しあげます。この志を大切に、地区社会福祉のために有効に活用させて頂きたいと存じます。

風習もありましたが今では焼いてその煙が早く天にとどいて願ひ事を叶えてもらえる様、笹焼きをして祈りをしました。
一・二才の幼い子達もお兄さんお姉さんと同じように手をあわせていました。保育も「早く子供達の願ひごとが叶えられますように」「たくましい子供に育ってほしい」と願ひながら手を合わせ七夕まつりを楽しく過ごしました。



これ、ぼくのおねがだよ！